

学習指導要領改訂における中学校英語の評価の在り方の一考察 (2)

岡崎 伸一・鈴木 啓*

Considerations on the evaluation of junior high school English in the revised course of study (2)

Shinichi Okazaki and Hiromu Suzuki

(Received September 30, 2022)

1. はじめに

学習指導要領の改訂されたものが小学校では2020年度から、中学校では2021年度から、高等学校では2022年度から実施されている。この学習指導要領改訂については、それまでの4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）で4観点（コミュニケーションにおける関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解）における評価から4技能5領域（「話す」が2領域へ分かれて、①「話すこと [やり取り]」、②「話すこと [発表]」となる。）の3観点（「知識・技能」、 「思考・判断・表現」、 「主体的に学習に取り組む態度」（以下、または「主体」とする））となっている。

筆者は2021年3月末まで東京都公立中学校に勤務しており、現場では校内研修等を通してこの改訂について学ぶ機会は何度かはあった。しかし、当時は改訂実施される前であったため、それまでの4観点から3観点への移行や観点変更による指導の仕方、評価方法、テスト問題作成等がどのようにされるべきかに困難が感じられた。

「学習指導要領改訂における中学校英語の評価の在り方の一考察」（岡崎・鈴木、2021）の共著者は、2020年度から、学習指導要領改訂案を先行実施する研究校であった新潟市立五十嵐中学校に勤務していた。新3観点になったものに精通しているため、前回と同様に具体的にテスト問題を検討し、情報共有をし、助言を得た。

学習指導要領改訂実施から2年目になったが、中学校現場では依然としてテストや評価に関する悩みが多いようである。今年度は東京都目黒区教育会英語部会から研修会講師の依頼を受けた。題目は新学習指導要領の評価に関する「3観点での指導と評価の一体化」であった。この機会を通し、中学校現場の悩みが解消される一手となればと考えた。

2. 研修会前での検討

講師依頼を受けた研修会の前に、東京都目黒区教育会英語部会の先生方からは複数の定期テストの提供を受けた。具体的にテストの中身について検討する要望を受けたのであった。研修会の時間の長さから判断し、元同僚である一人の方のテストを示しながら研修会を行った。

事前にアンケートを実施し、20名からの回答を得た。その中で「新3観点による評価の中で一番悩んでいる観点」についての回答は、「主体的に学習に取り組む態度」が19名で95%を占めた。「思考・判断・表現」が1名（5%）であった。「学習指導要領改訂における中学校英語の評価の在り方の一考察」（岡崎・鈴木、2021）では、最も質問が多く挙げられていた観点は同じく「主体的に学習に取り組む態度」が55%であり、「思考・判断・表現」に関しては31%であり、「知識・技能」に関しては14%であった。自治体は異なるが、新

* 新潟県立巻高等学校・教諭、新潟大学教職支援センター・講師

3 観点が2年目を迎え、困難に感じられるのが「主体」は同様であり、しかも95%を占めている。この観点で評価をすることに、どのような場面でどのように評価をするべきかに、より悩ましさが増したのであろう。逆に「思考・判断・表現」は5%に減少し、この観点に関しては理解が進んだと思われる。また、「知識・技能」での回答がなく、この観点については迷うことなく評価ができていたのだろう。

それぞれの観点（表1、表2）にて挙げた疑問点は以下の通りであった。

表1 「主体的に学習に取り組む態度」の観点

<ul style="list-style-type: none"> ・「主体」の具体的な評価材料、規準 ・何を材料として評価するのが正解か。評価材料にはどのようなものが適しているか。 ・点数化の仕方が難しい、評価の数値化が困難 ・評価の一貫性について（「AAC」「ABC」など） ・主体的な学びの観点材料が自分がやっているもので正しいのか不安です。 ・話そうとしている、などのように～しようとしているといったようなことが学習指導要領に書かれていて、それをどのように見とっていけばいいかわからないことがある。ワークシート等で見とる調整力、学びの工夫、粘り強さ等がメインになってしまっているような気がする。 ・主体的の評価をどう数値で表すか。説明をどうするか。生徒、保護者、教員が納得できる納得できる評価とは？ ・主体的…の観点の考え方、数値化の仕方、その妥当性に悩みます。 ・授業中の態度が良くない、ペア活動やグループワークをきちんとしない得点力のある生徒の主体的な学びの評価方法

表2 「思考・判断・表現」の観点

<ul style="list-style-type: none"> ・思考判断表現のテスト問題作り

筆者は、今回も研修会にて提示する資料の検討を共著者と共に行った。その上で一つ一つの事柄についての回答を示すことにした。

たとえば、「主体」の具体的な評価材料、規準」とあるが、「この観点の場合は、「思考・判断・表現」と一体的に評価することが可能である。一般的にはパフォーマンステスト等の評価に加え、振り返りをみることになる。ただし、振り返りは参考や加味する程度とし、生徒の変容を見取ることが必要となる」のように示し、加えて、共著者の学校で実施されていることを次のように具体例に示した。「自習学習を加点しており、（C = やっていない）、（B = 英検等の勉強に取り組んでいれば→ ABB = 3 になるので ABA = 4(3) とする。または、授業での貢献度がある生徒をプラスにする。しかし、評価が変わるのは10人中1名ほどである。学校で統一した方がベターであり、1年経っての課題は、「英語は一体的に見るが他教科では、思考判断表現と主体的に差がある。」と説明を付加した。ここでの例示は、提出物の有無での評価はしない、課題の中身で見取る（取り組んだ回数を評価し、ミスした問題をやり直したことや参考書をまとめているなどということである）。

また、「主体」に関して、二つの側面から評価を行う。一つめは、「粘り強い取組を行おうとしている側面」であり、二つめは、「学習を調整しようとする側面」がある。そのため、「粘り強く取り組もうとする、自己の学習を調整しようとする態度をどのような材料で、どのような場面で評価するのが適切か。」との質問に関しては、筆者がこの自治体で2021年1月に研究授業を行っており、その際に岐阜大学教育学部准教授である瀧沢広人先生からの指導・助言をいただいたものを具体例として挙げ、説明していった。

「思考・判断・表現」については、定期考査の提供のあった方のものを提示しながら、どの点をどのように修正すれば良いのかを示した。以下にその詳細を述べる。

右上図1に示したように、絵や写真を提示する問題を多く見かける。ここでは「知識・技能」に関する問題はあるが、「思考・判断・表現」に関するものがなかった。検定教科書は文法シラバスで構成されており、仕方がない面もある。しかし、従来通りの「〇〇を聞き取りなさい」ではなく、目的、場面、状況の設定をする「思考・判断・表現」の問題になり得る。図1にあるが、たとえば「あなたは明日遠足で〇〇に行こうとしています。天気予報を聞き、どんな服装をしていったらよいか選びなさい」という指示文を作成すると良い。

右中図2にあるように、読むことの問題（読解問題）においても、基本的なスタンスは変わらずに、「知識・技能」の観点であれば言語材料（文法項目）を含む部分に関して、内容を読み取らせることになる。そして、「思考・判断・表現」では聞くことの問題と同様に、言語材料（文法項目）を含んでいる必要はないが必要な情報の概要や要点を読み取る目的や場面、状況などを指示文に付記することになる。

右下図3にあるように、書くことの問題（表現問題）においても、上述の聞くことと読むことの問題と同様に、「知識・技能」の観点であれば言語材料（文法項目）を含むことに関して書いて表現させる問題を作成する。そして、「思考・判断・表現」の観点では上述の2問の問題と同じ様に、言語材料（文法項目）を含んでいる必要はないが書いて表現する目的や場面、状況などを指示文に付加することになる。提供された問題は条件通りに作成されており、良問ともいえるものであった。

「知識・技能」の観点の問題については、どの教員も「疑問や悩みがない」というアンケート結果通りに、条件通りに問題作成がされていた。そのため、紙面の都合上もあるが、ここでは掲載していない。

テスト問題検討

R4年度 英語科 前期中間テスト (2年生)

1 聞くこと (14点) 【知識・技能 14点】

1 これから、下の(1)~(4)の絵について、それぞれ3つの英文を放送します。それぞれの絵に最も合う英文を、放送されるア〜ウの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。英文はそれぞれ2回ずつ読みます。【知識・技能】

(1) (2) (3) (4)

2 これから、ケンタがさくら図書館について話している英文を放送します。英文のあとで、その内容について、(1)~(4)まで英語で質問をします。質問の答えとして最も適するものを、それぞれ下のア〜ウの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。英文と質問は通して2回読みます。【知識・技能】

知識・技能 → 「明日の天気予報を聞き取りなさい」
 思考判断表現 → 「あなたは明日遠足で〇〇に行こうとしています。天気予報を聞き、どんな服装をしていったらよいか選びなさい」

図1 聞くことの問題について

テスト問題検討

2 読むこと (26点) 【知識・技能 6点】 / 【思考・判断・表現 18点】

4 Q&A (必要な情報を読み取る) 問題 (読みとり) 【知識・技能 (1はSarahのこと)】

5 要点を読み取る問題 (読みとり) 【知識・技能】

6 内容真偽(T/F) (必要な情報を読み取る) 問題 (教科書) 【知識・技能 (1はAomoriのこと)】

知識・技能 → 言語材料を含む
 思考判断表現
 → 必要な情報、概要、要点 (言語材料はなくても良い)
 + 読み取る目的や場面、状況などを指示文に示します

図2 読むことの問題について

テスト問題検討

(2) 顧問の先生の話を聞きながら、英語部のあなたは日本語で必要な情報をノートに書きました。日本語で3つ当日に困らないための必要な情報を書きなさい。

3 書くこと (30点) 【知識・技能 6点】 / 【思考・判断・表現 24点】

1 2 今年の夏休みにシンガポールへ旅行に行くことになり、家族で予定表を作りました。学校の休み時間にナム先生へそのことを話すと、予定やしたいことなど詳しく聞かせてほしいと言われました。以下の旅行計画表のDay2,3,4から1つ選び、3文の英語で説明しなさい。【知識・技能】

Day	日付	行動予定
Day 1	July 30	arrive at Changi International Airport at 6:20 p.m.
Day 2	July 31	Orchard Road, shopping, lunch
Day 3	August 1	Gardens by the Bay, night shows or Night Safari, animals
Day 4	August 2	Sentosa Island, U.S.S. Singapore, swim
Day 5	August 3	leave for Japan at 10:30 a.m.

1 4 次の場面で、あなたなら何を答えますか。それぞれの場面や状況に合わせて、1文または2文の英語で書きなさい。【思考・判断・表現】

ア 事件の容疑者になったあなた! 「昨日の夕方らにどこで何をしていたか、詳しく話さない」と警察に聞かれた。さてあなたは英語で何と答えますか?

イ 夏休みに海外に住んでいる両親の友人(外国の人)が家に遊びにくるようになりました。初めての来客で、同じ年の女の子も来るみたい。さてあなたは彼女に何をあげますか?

ウ 明日は友達と外でバスケの練習をする約束をしていました。しかし、夕方の天気予報で晴れ降や雨の予報が出てしまいました。そこで友達に相談の電話をかけます。あなたは友達にどんなことを提案しますか?

知識・技能 → 言語材料を含む
 思考判断表現
 → 書く目的や場面、状況などを指示文に示します
 言語材料はなくても良い

図3 書くことの問題について

3. 研修会にて

研修会当日は、東京とオンラインで遠隔にて実施した。今回も90分の研修会であったために、回答を簡潔に解説するように心がけた。

初めは新3観点での評価に関して、各観点での基本的かつ重要な点を図4のように示した。「知識・技能」の観点では言語材料を含むことが鍵となる。その上で「知識」は「～を理解している」とする。そして「技能」は「～の技能を身に付けている」とする。「思考・判断・表現」の観点では、言語材料を含むかどうかは問われない。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現等「～をしている」とする。「主体」の観点では、「思考・判断・表現」と一体的に評価をすることが可能であり、語尾を「～しようとしている」となる。

評価規準の基本

- 「知識」言語材料「～を理解している」
- 「技能」言語材料「～の技能を身に付けている」
- 「思考・判断・表現」目的 3つの目標「～している」
- 「主体的に学習に取り組む態度」目的 3つの目標「～しようとしている」

図4 評価規準の基本

評価するには ポイント1

- 指導した直後には評価をしない。
しばらく経ってから定着の度合いを評価する。
- ペーパーテスト、パフォーマンステスト評価、作品、リスニングテストなど、領域に適した様々な方法で評価する。

図5 評価するポイント1

テスト作成上の原則 ポイント2

- 評価規準に沿った問題を作成する。(授業との一体化)
- 1つの大問にはふつう1つの評価規準に沿ったもの。
- 総合問題は適さない。
- 読解問題で教科書本文をそのままは×(読解=暗記)

図6 評価するポイント2

評価をすることの原則 ポイント3

- 妥当性:適切にその能力を測っているのか。
例)発音・アクセント問題をペーパーで×
- 信頼性:同じ結果がでるのか。
例)同じ人が同じテスト同時期で同じ結果
- 実行性:実施するのに無理がないか
例)インタビュー全員分録画し、後で評価 ×

図7 評価するポイント3

アンケートからの疑問

Q2: 新3観点で評価する上での悩み、疑問

- ・「主体」の具体的な評価材料、規準
 - ・何を材料として評価するのが正解か。評価材料にはどのようなものが通しているか。
 - ・どのような授業をしているのか、目標をおいているのか、パフォーマンステストで何をしているのか、などによる。主に定期テスト、パフォーマンステスト。
 - 評価のためではなく、クイズとして実施して評価には入れない。(小テストを入れても評価はそんなに変わらなかった)
- ・点数化の仕方が難しい、評価の数値化が困難
 - ・学年担当の自分で決める。年間通して同じ点数配分にする。
- ・評価の一貫性について(「AAC」「ABC」など)
 - ・点数化するのは2通り、①点数化 → ABC
 - ②ABC、ABC、...、まとめてABC評価する
 - 同じBでも40と65点が同じBになる。点数化だと、70B、70B、100 →B
 - 70、70、100 平均80 →A
 - 数値の方がベターか?

定期考査もABC? よりも数値化がベターだろう

・自治体や学校で決められる。AAA→5、4など、CCC→1(2はないかも)

図8 「主体」の疑問への回答の一例

アンケートからの疑問

Q3: 新3観点の評価について知りたいこと、聞きたいこと

- ・粘り強く取り組もうとする、自己の学習を調整しようとする態度をどのような材料で、どのような場面で評価するのが適切か。
→振り返りを見取り、その後に変容が見られるのかどうか。
(学校や教科担当で決定し、統一化するのがベター)

- ・自分で考えて、相手に何を聞き返せばいいのかなどを考えて書けるようになった。
- ・できるだけ自分で考え、例にない場についてのことを言ったりして工夫した。
- ・相手から、スベリングを教えてもらい、完璧にするようになった。
- ・ペアの人がPlease tell me more.ばかり使って全く自分の日本の良い所を言わなかったため、なんとか言わせるように工夫した。
- ・同じような表現を使わず、他の言い方を探してみることをした。

粘り強い取組を行おうとしている側面

- ・ペアの人がPlease tell me more.ばかり使って全く自分の日本の良い所を言わなかったため、なんとか言わせるように工夫した。
- ・同じような表現を使わず、他の言い方を探してみることをした。

(おしい)

- ・相手が述べた意見に対して言うときは、なぜそう思ったのか、根拠を明確にして発言すると説得力があるように感じた。
- ・相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を述べるのは大切であると改めて思った。
- ・もし話題に困ったら、Are there ~? Let's go to ~などを使って切り替えることを学んだ。

図9 「主体」の2つの取組

そして、評価をする際のポイントを3つ(図5, 6, 7)提示した。1つめは、指導後にすぐに評価をしないことである。練習段階を経てから定着度を評価する。そして、定期考査のようなテストのみではなく、発表ややり取りなどのパフォーマンステスト等でも評価をする。2つ目は、筆記テストでのポイントである。大問ごとに評価規準に沿った問題作成をする。文法問題や読解問題などが同じ大問に含まれる、いわゆる総合問題は出題しない。読解問題で教科書本文をそのまま出題しない。すなわち、既習のものでは読解に当たらないということである。基本的に「指導と評価の一体化」であるため、評価規準に沿って授業を行い、その定着度を測ることになる。3つ目は、評価することの原則を3点提示した。それは、妥当性と信頼性と実行性である。

基本的な事項をおさえてから、表1に上述したように事前に受け取った評価に関する疑問点等について回答をしていった。図8は「主体」の疑問への回答の一例である。ここでは、「主体」の具体的な評価材料、規準について、①何を材料として評価するのが正解か。評価材料にはどのようなものが適しているか。②点数化の仕方が難しい、評価の数値化が困難。③評価の一貫性について(「AAC」「ABC」など)、という点に回答したものである。

①の回答としては、どのような授業をしているのか、目標を示しているのか、パフォーマンステストで何をしているのか、などによる。主に定期考査、パフォーマンステスト、小テストを入れても評価はそんなに変わらなかったため、評価のためではなく、クイズとして実施して評価には入れない、とした。

②では、学年主担当が自分で決めることとし、年間通して観点内で点数化するものを同じ点数配分でないとアンバランスが生まれ、自然に重みづけが付くことがある。

③は、点数化するのは2通りあり、①点数化→ABCと②ABC, ABC...をまとめてABC評価をする。懸念する点は、同じBでも40点と65点と点数が異なるのだが同じBになる。また、点数化すると、70点、70点、100点の平均80点でAとなるが、もう一方は70点でB、70点でB、100点でAとなるが、それをまとめて評価するとBになる。このような違いが出るとなると数値の方がより良いであろう。定期考査についても同様である。基準となるABCとそして評定値を換算する方法は各自治体や各学校で決めることができるようになっている。

「主体」の観点の中で、粘り強く取り組もうとする態度と自己の学習を調整しようとする態度をどのような材料で、どのような場面で評価するのが適切か、という疑問も挙がった(図9参照)。回答としては、基本的に振り返りを見取り、その後に変容が見られるのかどうかを評価することになる。学校や教科担当で決定し、統一化するのがより良い。具体的には、筆者の研究授業での講評されたものを例に挙げ、説明をした。たとえば、粘り強い取組を行おうとしている側面は、「～を考えて書けるようになった」や「スプリングを教えてもらい、完璧にするようにした」であったり、「なんとか言わせるように工夫した」という振り返りシートから見取ったものであった。もう一方の学習を調整しようとする側面は、「～という表現を先生が言っていたので、活用することができた」や「あまり単語が書けないので、先生が例として言っていたことを自分のことに当てはめて書いた」(下線部は筆者が付記)が挙げられていた。これらは、ある表現があるからAなどと評価をするのではなく、イメージとしては加味する程度が良いだろう。

その後には、テスト問題検討として「2. 研修会前での検討」で上述したように、表2の疑問点について図1, 2, 3等を例示しながら解説していった。

4. 研修会後

90分ほどの研修会ではあったが、参加された先生方の理解がどの程度進んだのかを知るために、Google formsによるアンケート調査を行った。その結果は次ページの図10～13の通りであった。

回答数は12名と少なかったが、前回同様にある程度の傾向は読み取ることができた。たとえば、指導歴が20年未満の若手と中間層が91.7%でとても多い傾向であった(図10参照)。観点に関しては、前述したように「主体」は他の観点よりも多くの先生方が疑問や不安を示していた(図11参照)。「主体」の中で4技能5領域別で見ると、あまり差は見られなかった。「思考・判断・表現」では、聞くこと以外は少ない(図11参照)。逆に研修前に疑問や不安がなかった項目(図12参照)では、前述したように「知識・技能」や「思考・判断・表現」よりも「主体」の方が疑問や不安があることを示しており、特に読むことの技能に関してであった。研修会前後での比較(図11と13参照)では、疑問はおおよそ半減した。特に技能別で聞

くことと書くことに関しては、研修として役に立てたのではないだろうか。

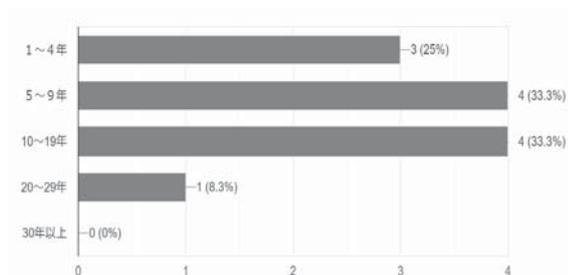


図10 アンケート回答教員の指導歴の構成

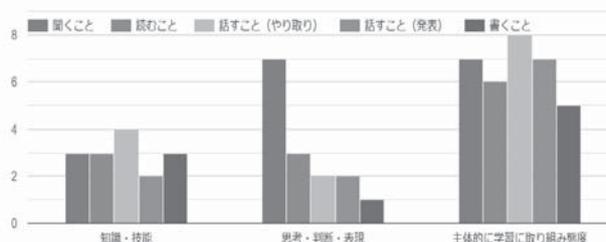


図11 研修前に疑問や不安があった3観点・5領域

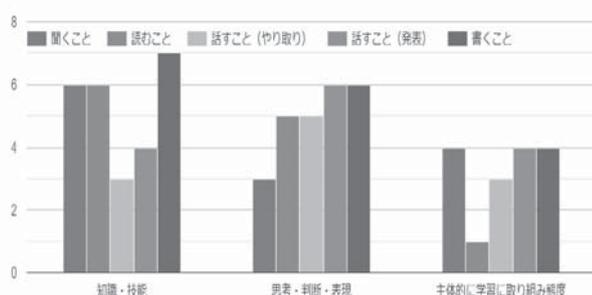


図12 研修前に疑問や不安がなかった3観点・5領域

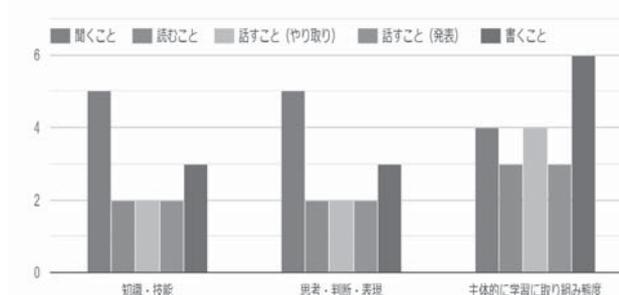


図13 研修会後に疑問や不安が解消できた3観点・5領域

研修会終了後の先生方からは、以下の表3のような感想が見られた。

表3 研修会後の教員からの感想

- ・読むことの思考判断表現がクリアになったので、テスト問題が作りやすくなりました。評価についても思考判断表現と主体的な学びを一体化で考えることで、適正な評価になっていくと思いました。ペアワークやらない生徒のペア評価も一度取り入れてみようと思います。
- ・場面を設定することで思弁表になるなど、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・具体的な事例をあげて説明してくださったので分かりやすかったです。
- ・岡崎先生の授業を以前参観させていただいたので、昨日のお話をとても楽しみにしていました。ですが、途中で電話対応などが入ってしまい、最後まで内容を聞くことができず残念でした…。申し訳ございません。また、ぜひお願いいたします。
- ・なかなかショッキングな事実など、普段聞けないことも聞いて楽しかったです。自分の定期考査も講評していただきたかった。
- ・お忙しい中ありがとうございました。主体的に学習に取り組む態度を定期考査に観点として含むどうかで教科内でも、学校内でもバラバラなので、含まないということで少しスッキリしました。ありがとうございました。
- ・副担任で、かつ少人数授業をしていると、(週21時間の3学年分) 評価をする感覚が鈍くなってしまいます。忙しさに追われていてはいけないのだと感じました。
- ・非常に心強いご助言でした。これからもさらなる研修が必要ですが、ご助言を参考にさせていただきたいと思います。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価項目を確認することができて良かったです。

以前に赴任していた自治体のために付度した感想もあろうが、研修として先生方の疑問や不安解消の一助となったと考えている。

また、研修会後に新たに生じた疑問や不安もあるだろうと思い、記述してもらおうと下表4のような声が聞かれた。

表4 研修会後に新たに生じた疑問や不安などの点について

- ・パフォーマンステストの観点と、今年度から導入される東京都スピーキングテストの観点をの違いに困っています。スピーキングテストは知識技能と思考判断表現の評価が混ざっていて、指導の際にスピーキングテストの評価基準でもやりたいけれど、混ざってるので評価つけにくい事象が起きています。これもねじれの一種なのでしょう。
- ・「読むこと」に関して、「知識・技能」なのか「思考判断表現」なのかの区別がわからない。
- ・区によっても違うのですが、タブレットの導入によって色々な差が生じてきているように思います。定期考査の採点をタブレットで行える区、行えない区、ロイロを導入している区、していない区、自分がどの自治体に所属するかで指導方法が変わってくるのが不安になりました。
- ・どのようにして変化が見られたかを見るのは、少人数などで難しい場合はどのようにすべきでしょうか。

特に下線部（筆者が下線を付記）では、学校で行う定期テストや評価と模擬試験や入試などの外部試験での評価の観点を相違に関する現象であったり、自治体の違いによる設備等の違いによる不安、そして、少人数制指導による生徒の変容を見取る困難さが見られた。

外部試験との違いに関しては、教員が変更できるものではないため、各試験の違いを教員、生徒も認識しつつ、それぞれの試験に対応できる力を付けることが近道であろう。筆者自身は、外部試験対策は授業内の活動でも対応できるように考えながら実践してきた。たとえば、英検や入試のリスニングスクリプトを参考にし、頻度の高い表現を普段の授業から Teacher Talk として活用していた。そうすると生徒からは「先生は授業で英検対策をしているのですか」と尋ねられたこともあった。教員として焦ることなく、外部試験等は英語を学ぶ上での通過点である意識でありつつも、生徒が点数を取れるような指導も工夫することが良いだろう。

自治体による機器等の違いはよく見られる現象である。同じ自治体でさえも学校によって予算配当が異なることもある。機器はあくまでもツールであり、枝葉でしかないと考えている。当然、新しい機器があり、活用できれば活動の幅も広がるだろう。しかし、先輩方の時代にはそのようなものがなくとも、実践として結果を出されている方も多く、それらの実践を参考にしつつ、工夫をしながら目の前にある条件で勝負していくしかないだろう。

最後に、少人数制指導の中で生徒の変容の見取りに関することであるが、これは授業者が責任をもって評価するのが妥当であると考えている。ただし、見取る場面や回数を絞り、各学年で共通実践していくのが現実的であると考えている。

5. おわりに

絶対評価が導入されてから20年ほど経過した。現場では、まだまだ相対評価の名残りが散見される。今回の新3観点への移行も始まったばかりである。学期ごとや年度ごとに実践されたことに修正を加えながら、教科や学年、学校単位で共通化できるものは統一化し、教科特有なものは教科担当者間ですり合わせしていくのが現実的で負担なく評価できるであろう。現場では新たな機器導入がされたり、〇〇教育と謳い業務が追加されたりすることもある。しかも、教育現場での働き方改革も叫ばれている。問題解決には時間がかかるだろうが、現場の先生方を応援していきたい。

中学校現場で20年ほど教鞭をとっていた筆者としては、学習指導要領改訂による評価規準等への対応の苦労は理解している。そのため、研修会の講師として招かれた際には、現場で奮闘する先生方の声を少しでも研究の場に届ける役割を果たしたいと考えている。今後も学校現場の視点を忘れずに大学での研究・教育に力を注いでいく決意である。

参考文献

- 1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 2020. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料. 東京:東洋館.
- 2) 瀧沢広人. 2020. 小学校外国語活動&外国語の新学習評価ハンドブック. 東京:明治図書.
- 3) 長野県教育委員会. 「中学校英語「指導と評価の一体化」テスト改善ハンドブック.
URL : <https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/documents/tyuugakkotestkaizenhandbok.pdf>
- 4) 本多敏幸. 2020. 中学校外国語新3観点の学習評価完全ガイドブック. 東京:明治図書.
- 5) 本多敏幸. 2021. ELEC 同友会オンラインセミナー資料.
- 6) 松浦伸和. 2022. 中学校外国語「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価完全ガイドブック. 東京:明治図書.